

ゴールドコーストへの日本人旅行者の動向について

有 吉 宏 之

追手門学院大学

1. 今回の目的は、第一にクィーンズランド大学との意見交換でクィーンズランド州への日本人旅行者が増加し続けている背景を発表するとともに、第二にゴールドコーストに駐在する日系旅行者の関係者より現場の声を聴取することにあった。

2. 時系列的にいえば、8月26日（木）ゴールドコースト駐在の日本旅行支店長と面談して昨年訪問した時点からの変化なり動きについて情報収集を行った。（南出教授及び橋本教授と私3名で訪問した）

支店長よりは、ゴールドコーストへの最近の日本人旅行者の動向について説明を頂いた。

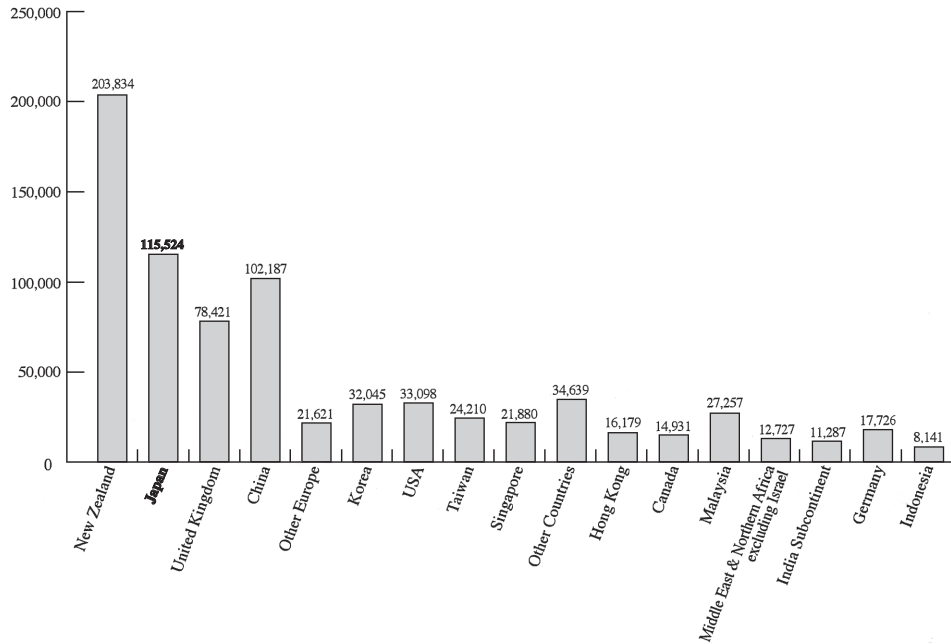
オーストラリア政府の資料を基にした統計によれば、2000年より2008年まで毎年減り続けたゴールドコーストへの日本人旅行者数は、2009年始めてわずかではあるが反転に転じた。その理由については支店長もよく分からないと述べられ、これから増加し続けるかについても予測はつかないとのことであった。

3. 有吉より、日本の若者層が海外旅行への興味を失いつつある今日、最大の客層でありまた別途旅行への支出もままならなくなっている若者層はスケルトン・ツアーへ雪崩を打って参加している。しかしオーストラリアはスケルトン・ツアーの中心地である東南アジアの様に価格料金をディスカウントできる要素があまりないので、日本人のオーストラリア観光旅行の将来は厳しいのではないかと質問したところ、今回2009年に旅行者数が反転した要素としては高齢者旅行者の増加があるのではないかと思う。高齢者旅行者は値段は高くても質のいい観光旅行を希望しており、オーストラリアは環境保護や自然と親しむツアーなどまだまだ魅力のある要素はあるので、将来については楽観しているとの説明であった。

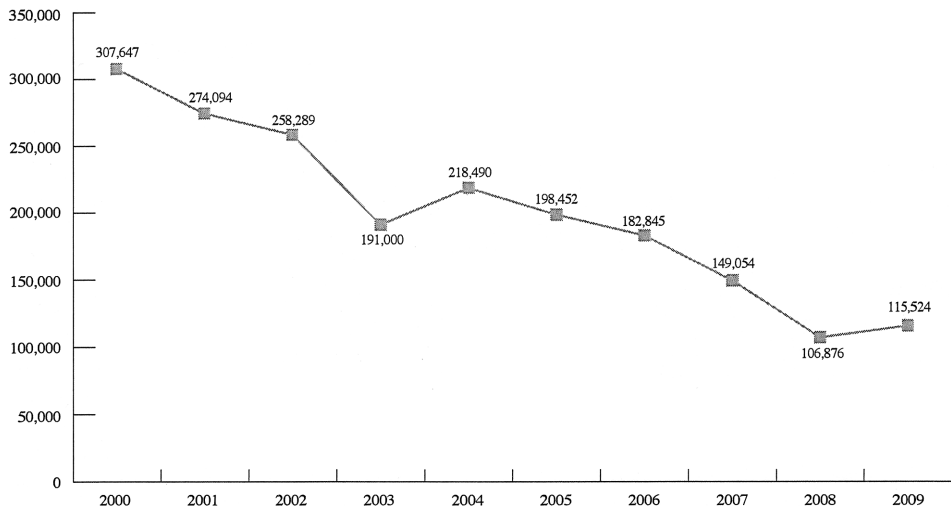
4. 8月27日（金）クィーンズランド大学で行われた研究交流ミーティングでの研究発表では、有吉は山口誠著の『ニッポンの海外旅行－若者と観光メディアの50年史』（筑摩書房刊行）の内容に基づいて2000年以降日本の若者の海外旅行及び海外に対する関心の低下は、最大の旅行者層である若者の海外旅行の低下減少を招くとともに、その一方で格安航空料金

とグルメ、買い物を売り物とするスケルトン・ツアーが主流となってきた。これにより日本より近場の東南アジア地域がこのスケルトン・ツアーの主たる訪問先となったが距離が遠く、格安航空料金をオファーできないオーストラリアなどは苦しい戦いに追い込まれていると述べた。更に有吉より海外旅行においては航空料金が大きなファクターであり、格安料金をオファーできる東南アジア、欧州、北米はそれほど大幅な日本人旅行者の通減的減少は見られないが、オーストラリアはオープンスカイ政策を採用して外国の格安航空会社の就航を認めるぐらいのことをしないとこの減少傾向をとめることはできないかもしれない。しかし他方で欧米よりはオーストラリアの自然をもとめて長期間オーストラリアを旅行する観光客も増えて高質な観光旅行客も増えているので、この方面での可能性を開拓すれば、日本人旅行者の減少を止める要素になるかもしれないとの見解を述べた。（研究交流ミーティングでの有吉の発言資料：8頁）

GOLD COAST INTERNATIONAL VISITOR ARRIVALS 2009



MOVEMENT JAPANESE VISITOR ARRIVALS 2000-2009



(Tourism Research Australia による)

Presentation paper on the movement of Japanese tourists to Queensland State

27th of August, 2010

Hiroyuki Ariyoshi

Otemon Gakuin University

Quoted from the book “the overseas trip of Japanese” authored by Mr. Makoto Yamaguchi and published by Chikuma publication.

1. Japanese media used to report that young generations in Japan are not interested in going overseas trip recently. However it does base on the fact or not?

If so, from when the numbers of young tourists in Japan started to decline?

2. According to the statistics of the Ministry of Justice, the highest numbers of the Outbound tourists of 20s was recorded in 1996, meanwhile 4.63 million young Outbound tourists of 20s made overseas trip in that year.

And that numbers has declined to 2.62 million in 2008 which numbers had dropped by 43.4%.

Particularly, the female tourists of early 20s is significant that was dropped almost 50%.

The disinterest of young generation to outbound trip hasn't been started from the early 2000, but it is the tendency is started from 1996.

3. The likely reasons why the young generation of Japan became disinterested in the outbound trip

- (1) The international factors like 9/11 terrorist attack, Iraqi war, the epidemic of SARS, the pandemic of new typed flu and so.
- (2) The domestic factors like the long-lasting economic downturn, the expansion of part-time workforce and the widespread unemployment of young workforce.
- (3) The easy accessibility of Internet which makes young generation obtainable to the overseas information easily and in details and this new environment discourages young generation's motivation to the outbound trip.

4. The particularity of so-called “Skelton Tour” (no frill tour)

- (1) short period of 3 night stay
- (2) early booking and purchase of the round air ticket and hotel voucher
- (3) no tour attendant with own schedule.
- (4) fare should be much cheaper than privately arranged tour